

第三回オカヤ駅から未来プロジェクト

【コンサル A】

まちの将来ビジョン（素案）に関する説明

○現状と課題

- ・人口減少：人口は著しく減少。特に若者の転出超過が顕著。昼夜間人口比率も減少傾向。
- ・市街地と交通：市街地人口は幹線道路沿いに集中している。駅の乗降客数は大幅に減少している。駅前では送迎車両による渋滞が発生しており、安心して利用しやすい駅前空間の整備が必要。
- ・産業構造：一次産業の比率が低く、二次産業の比率が高いが、若者や女性のニーズに合わない状況。商業規模は減少傾向で中心市街地の空洞化が進んでいる。工業規模は茅野市に次ぐ規模となっている。
- ・居住環境と地価：住み良さランキングは低い。地価公示や路線価も下落傾向。

○将来像と取り組み

- ・拠点整備：ララオカヤの解体（R8 年度開始）と暫定利用（R10 年度開始）を起点とした将来像の実現を目指す。
- ・岡谷駅前広場の再編：交通広場の再形成、カフェなどの多機能導入エリア、広場エリアを設けるイメージパースを示している。これはあくまでイメージであり、確定ではない。
- ・民間との連携：民間の役割を明確にし、『まちなか空間活用のススメ』（以下、ススメ）を通じて関わりを強化する。
- ・リーディングプロジェクト：ロードマップ上に主要プロジェクトを明記し、関係性を明確化。

この素案は、岡谷市の抱える人口減少や市街地の活力低下といった課題に対し、駅前空間の再編や民間連携を通じて、住みやすく魅力的なまちづくりを目指すものである。

将来ビジョンに関する質疑

【会長】：前回会議にて、課題を明確に表現するべきという意見をもとに資料の充足を図った。40 ページの強みについて、なぜ岡谷に人が留まらないのか分析した結果を出してもらっている。課題を明確にするという方向性について確認したい。

【委員 B】：課題について掲載してもらおうのは良いかと思うが、将来ビジョン冒頭に 40 ページほどの分量で課題が多く掲載されているので、後半の内容が頭に入ってこないのが気になる。3~4 ページ程度にまとめ、資料編に詳細を書くのはどうか。

【委員 A】：課題はどこの市町村でもある内容。例えば、後継者不足、人口不足などの岡谷特有の課題は何があるか追求してほしい。岡谷らしい課題を深掘りしていくことができれば良い。

【委員 I】：基本的なことは資料としてあるのは良い。岡谷特有の問題をどれだけコンパクトに書けるかが大切。24 ページに昼間人口の減少が書かれているが、なぜ減っているのか、減ったことにより何が問題なのかについて、解説してもらえれば、後半の資料にも連続性が生まれる。まちなかに住んでいる人口の減少がどうなっているかについて、より丁寧に記載すれば良い。

昼間人口の話は全ての内容につながり得る。逆に、昼間人口のうち産業人口を課題とすると、広場を作れば人が増えるという仮説には繋がらない。資料では、商業など停滞している理由が不明瞭なので、それぞれに応じた課題の抽出とその課題に応じた解決策や改善策をコンパクトにまとめる必要がある。

課題がたくさん記載されているが、後半への流れのためにパッと見た時に分かるようにすれば良い。

- 【会長】：交通から見た課題について、資料では駅前にフォーカスされているが、「交通的な要素」、「産業構造について変化している点」、「商業環境」について何か意見があれば伺いたい。
- 【委員 E】：課題について勉強になった。乗降人数について、減少している理由が良く分かった。映画館やレイクウォークに向かう学生が駅の利用者のメイン。人口減少により減少しているのは仕方がない。資料の見せ方について再考してほしい。48 ページのスパイラル表現について、私は見やすいと思っている。
- 【委員 G】：現状駅の送迎がかなり増えている。車が電車の時間帯に多く来ているのは良く分かる。理想は松本駅のお城口のように車と公共交通を分けてはどうか。資料を確認する中で、ラオカヤの解体が契機になっているのが分かりやすくなった。課題のページが多くなっているので、簡素にしたほうが良い。
- 【委員 F】：22 ページの写真について、実際はもっと混雑している。各イラストについて、よくできていると思う。渋滞について、重大な問題だと思っている。まちづくりの中で解消が必要である。渋滞しては、タクシーもバスも動けないので渋滞を解消することについても考えたい。
- 【委員 H】：工業の観点から見ても、従業者の減少が著しいことが良く分かる。後継者不足により、製造業が無くなる可能性が高い。能力のある人が高齢化しており、継承していくのは難しいと考えている。工業の枠組みを変えていかないと衰退が目に見えている。岡谷市は工業に支援をしているが、次に繋げていくにはものづくりの楽しさを知ってもらうことが重要だと思っている。まちの活性化については、若年層の起業がキーワードだと思っている。起業しやすい土壌を作る、まちづくりとセットにして考えるというのが大切だと思う。
- 【会長】：岡谷から事業者が流出してしまう原因は何が考えられるか。
- 【委員 H】：スペース（工業用地）の問題で離れることがあるという話は聞いたことがある。岡谷市内に条件が合うところが少ないが、南信方面では条件が良い。このような問題があるのではないか。
- 【コンサル A】：南信方面の方が土地価格は確かに安い。資料に南信方面との比較を充足する必要がある。名古屋に近いのも要因かと思われる。
- 【委員 C】：人口の増加しているところと岡谷市は何が違うのか気になった。現在、商業は厳しい状況にあるが、人の流れがあると活性化しやすいと思っている。人が集まり、関係が生まれるようなものができるとう良い。
- 【会長】：後ほど説明する『まちなか空間活用のススメ』について各場所の指南書が作成されているので、そちらについても確認してほしい。

【委員 A】：商業についても、まち全体が明るくワクワクするような場所があると賑わいが生まれる。
工業一辺倒ではない。何か駅前であれば外部から来てみたいと思う人が増える。
食堂などはどんどん閉店している。明るく何かありそうなスペースがあれば、次に繋がると思う。

【委員 B】：まちづくり会社の設立は、岡谷市のまちづくりの転換期にあるので、このタイミングで設立した。できる限り関わりを持っていきたい。商業だけでなく工業についても手を伸ばしていきたい。
工業用地を提供することができればいいが、岡谷市は土地が少ないので難しい。

【事務局】：岡谷市は土地の少なさがネック。フォレストモール敷地の前身の会社は、土地不足により撤退した。
どうしたら賑やかなまちを作ることができるか考えるのは難しい。具体的な案についても明確になっていない。

【会長】：フリースペースとして誰もが使える場所の活用が必要かと思う。明るく前を向いて考えていく必要がある。課題の構成については、今後事務局と調整していく。

【事務局】：33 ページの事業所数について、平成 12 年までと、平成 13 年以降とで統計手法の変更により、数値が著しく変わった。実際はそこまで落ち込んでないかと思われるので修正する。

【会長】：リーディングプロジェクトに掲載のある、まちのツボとして 5 箇所を選定している。岡谷市役所前広場も公開する方向性で良いか。

【事務局】 良い。

【会長】：市役所前についても駅から離れた場所の活用として考える必要がある。
次に『まちなか空間活用のススメ』の説明をお願いしたい。

【コンサル A】：
77 ページでは、市民ワークショップ（以下、WS）で岡谷の街中を活性化したいイメージが掲載されている。
市民が主体的に動くことを明確に表している。
78 ページの一枚絵については、今後の WS で詰めていく。
第 3 章では、各地点について
概要、イメージコンセプト、活用方針、短期的アクション、ロードマップを掲載。
前回会議では岡谷駅前のみであったが、今回は 5 箇所全てを掲載している。
151 ページ以降では、実施体制について記載している。

【会長】：WS にはどういう人たちがどういう思いで参加したか。
今年度で終わらず、WS を続けていくか。参加者の熱量はどの程度であったか。

【事務局】：総勢 26 人の方々に参加してもらった。熱量はある。次年度以降についても継続していくことを考えている。WS 参加者のうち、女性は 3 割程度。

【コンサル A】：次年度以降の WS の開催について、将来ビジョンのロードマップでも記載している。

- 【会長】：周りも巻き込んで考えていくべき。ララオカヤ跡地のイメージ図では、カフェなど書かれているが、まちづくり会社にとって、こういった関わりを持つことが考えられるか。
- 【委員 A】：予算があるので難しいが、駅南の開発が“キモ”だと思っている。逆に何もしないようであれば、そこそのものしかできないと考えている。駅南の開発ができれば成功すると思っている。
私も WS に参加したが、若い人々については引っ張ってってくれる人が多いと感じた。
- 【委員 F】：上諏訪駅側に駐車場があるが、あまり使う人がいない。岡谷駅前に駐車場を作っても利用するかが微妙なことではある。駅前でスケボーをする人がいるが、市の広場にそういう空間を設けるのはどうか。若者を考えた取組を行うことで、好感が持たれるのではないかと思っている。
- 【委員 C】：童画館通りについて車の通行を規制するべきだと思っている。低速度の路面電車を走らせるとか。
- 【事務局】：WS でもそういった意見が出た。例えば土日だけは規制するなどの意見もあるので、再整備を行う際の選択肢になり得ると思っている。
- 【県】：定期的な道路封鎖というキーワードについて、事前に定期的なイベントを開催して、実績を持たせることで、警察サイドとしても規制するという話になる。いきなり規制をかけるのは難しい。
- 【委員 A】：童画館通りを電気自動車や路面電車などのみで通行するのはいいかもしれない。近年、自動運転技術を利用している事例もある。
- 【会長】：全面的に規制してしまうと、沿線の社用車が入庫出来なくなると商業者が反対する場合もあるが、県では事例などあるか。
- 【県】：事業者に対しては、規制区域は許可制にするなど対応を行っている事例もある。
- 【委員 I】：規制については、一連の流れで申請していくと良い。規制することを目標とするのは望ましくなく、規制して何をするかなどの取り組みをセットで考える必要がある。
近年では、5km/h の速度であれば、どこでも走れるようになっている。
(自動運転に取り組むのであれば) 童画館通りの延長的に国内でも最長になるかと思うので、岡谷市独自の取り組みにするのはいいかもしれない。
- 【委員 G】：自動運転のような技術を岡谷市でも取り入れることができればと思う。
- 【会長】：公共交通の自動運転の実施は課題がたくさんある。ススメには、童画館通りは規制できることが前提でイメージが掲載されている。市としてもトライアルしたいという気持ちがあることで良いか。
- 【事務局】：良い
- 【会長】：最後に意見などあれば伺いたい。

- 【委員 B】：資料について前回よりも見やすく、分かりやすくなっている。イラストがあることで見やすさが向上している。大枠はいいと思う。最初のページ（P4）にまちの将来像（P46）の絵を入れるとよりわかりやすくなるのではないかな。
- 【委員 A】：改札を自由通路に設け、駅南は一般車、駅北は公共交通という区分を分けるべき。駅前の開発が起点になる。
- 【委員 C】：まちづくりに関わってくれる人が増えるように CMなどを打ち出すのはどうか。ほかには、デジタルサイネージなどに掲載するとか。
- 【委員 H】：ワクワクが大切。駅南でやりたいことが個人的にあるので出来れば良いと思っている。
- 【委員 F】：71 ページのロードマップを見て、よくできていると思っている。長野県内に映画館は複数あるが、その中で岡谷はアクセスが良いと思うのでそこが良い点だと思う。
- 【委員 G】：駅南についても含めて考えたい。橋上駅についても将来的に実現できれば良いと思う。
- 【コンサル A】：南口についても、ビジョンの中に記載はあるが、北口の開発が進んだ段階で話題に上げていきたい。ロードマップでもそのような優先順位の記載にしている。
- 【会長】：財源の課題もあるので、優先順位を決めて整備を進めることが必要である。
- 【委員 E】：可能性は駅の周辺にたくさんあると思っている。98 ページの駐車スペースについて送迎者はめんどくさがりながら送迎に来ていると思う。迎えに来たらただ車を停めるだけではなく、何かできると良い。イルフプラザに関する表現が少ない。今後整備が進んでいく中で置いてきぼりにならないようにするべき。
- 【委員 I】：概要版ができれば良い。まちなか空間活用のススメについて、市民主導のリーディングプロジェクトにすることで一貫性のある一冊にすることができている。どんな人がどんなニーズを持っているか探ることが大切。公共空間でイベントをするのは大変。どこが主体になるかはまだ決まっていないと思うが、来年以降の WSなどで決めていってほしい。今後も継続することをビジョンに書いてしまっても良いかもしれない。
- 【会長】：細かい部分や、未完成の部分については伝えられるような構成にする。事務局と会長の調整に一任するということが良いかな。

一同：良い。

閉会挨拶

- 【会長】：皆様の関わりがより良いまちづくりにつながる。今後ご参加いただきたい。
- 【事務局】：これからのまちづくりは、行政と民間、お互いが役割を分担して連携協力していく必要がある。そのための指針となるのが、本日お示ししたまちの『将来ビジョン』と『まちなか空間活用のススメ』だと思っている。今後も引き続き、ご意見等があれば事務局に連絡いただきたい。